

来週の『売り物』記事はこれ



2016年5月27日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

カンボジア支援 老神父の焦燥

29日(日)



東京郊外にあるカトリック教会の神父、後藤文雄さんは1981年、内戦から逃れてきたカンボジア難民の少年14人を里子にしました。そのうちの1人、旧ポル・ポト政権による強制移住で一家離散し、生きのびるためにポト派の少年兵になったメアス・ブンラーさんは、日本の夜間中学・高校を経て専門学校を卒業し、



帰国後は、カンボジアに小学校を建設する後藤さんを現地で助けてきました。しかし、前線で地雷原を進んだ恐怖、ベトナム兵を刺殺した記憶など少年兵の時に負った心の傷が、今もふっとした瞬間に表出します。一方、86歳となった後藤さんは体が思うように動かず、気力も衰えてきました。「35年間にわたる支援は、果たしてカンボジアの自立につながったのだろうか」。不安を覚えつつカンボジアへ向かう後藤さんに記者が同行しました。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

デフレ脱却の道、遥かなり

日銀の異次元政策の行方

オピニオン面 [そこが聞きたい] 6月2日(木)



日銀の黒田東彦総裁が2013年4月に「異次元緩和」を打ち出してから3年余りが経過しました。今年2月にはマイナス金利政策を導入しましたが、景気の低迷に加えて、政策意図に反する円高・株安の進行もあって、デフレ脱却はまだまだ見通せない状況です。果たして、日銀の政策は妥当なものだったのでしょうか。元日銀理事に政策の評価や今後の課題を聞きました。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

第71期本因坊戦第3局 6月2日(木)、3日(金)

第71期本因坊戦第3局は、6月2、3の両日、秋田県能代市で打たれます。今回が7冠最初の防衛戦で、永世本因坊がかかる井山裕太本因坊。対する高尾紳路九段=写真=は、3年ぶりの挑戦で4度目の戴冠を目指します。

開幕戦は高尾九段が鮮やかに先勝、第2局は井山本因坊が厳しく勝って、成績は五分。仕切り直しの一局です。勢いに乗る若き本因坊と、充実したベテラン挑戦者、激しい火花が散りそうです。



産む自由、産まない自由

くらしナビA面 6月2日(木)



厚生労働省が公表した人口動態統計で、合計特殊出生率が2年ぶりに上昇し、21年前の水準まで回復しました。「人口1億人」「経済の活力維持」と国家の重要問題になっていますが、子どもを何人産むか、産まないかは本来、結婚するかしらないかと同様、個々人の生き方の問題です。産まない選択をした人たちにその理由を聞き、少子化対策を別の側面から考えます。

認可外保育所の選び方

くらしナビA面 6月4日(土)

来春の保育所入所に向けた「保活」が始まっています。待機児童問題がなかなか解決せず、先着順で入所が決まる認可外保育施設に申し込む親も多そうです。保活を体験した女性は「親にとっても初めての保育園で、何が普通か分からなかった」と語ります。保育事故も報道される中、我が子を安心して預けられる保育所は、どう選べばよいでしょうか。



女の気持ちをたずねて



おんなのしんぶん 30日(月)



「女の気持ち」に掲載された投稿者を記者が訪ねる人気コーナー。今回は「日にち薬」について書いた岡山県倉敷市の女性宅を訪問します。夫が亡くなった寂しさは埋まるものではありませんが、悲しみをゆっくり癒やしてくれるのが、時の流れという薬。さらに、子や孫に見せたことがない「宝物」も。それは結婚前に夫が書き送ってくれた100通もの手紙でした。

民進党キーマンがベテラン記者に語る「政権への展望」

細野豪志元環境相「野党は批判だけではいけない」

夕刊特集ワイド 30日(月)

民主党と維新の党が合流して生まれた「民進党」の存在感が薄い。最大野党なのに支持率は低空飛行が続きます。選挙を控え、「1強」安倍政権にどう対抗しようというのか——。若手リーダーの筆頭格である細野豪志元環境相に、ベテラン政治記者の松田喬和・毎日新聞特別顧問がずばり聞きます。細野氏は、民主党失速の理由として党内の人材不足や人間関係の薄さを挙げつつ、安全保障問題などについては「現実的な対応を」と語ります。

